

# 果樹園だより

徳島県立池田高等学校三好校



## \*\*モモの棚付け\*\*

新学期が始まって最初の実習は5月に苗木を定植したモモの棚付けです。棚付けというのはモモの主枝の軸を造っていく基礎になる大切な作業です。

棚に直接結びつけられる枝は、ビニールひもでそのまま結び付け、枝が棚に届かない場合は、ビニールひもで枝を引っ張るようにして棚に結び付けて行きます。



## \*\*ブドウハウスの管理\*\*

ブドウの収穫前には袋がけしたブドウの房、緑の葉と茶色いツルと色彩豊かでしたが、収穫後に葉が落ちた後、ツルと枝・樹の茶色一色になりました。

この日の作業はツルを棚に結び付けていた針金外しです。見落としがないようにしっかり確認していきます。このあとせん定の作業へと入っていきます。



## \*\*ハッサク収穫\*\*

敷地農場には以前多くのハッサクの樹がありました。しかし、樹齢40年の老木のため、多くの樹を伐採しました。現在は4本が残るだけですが、4本ともに多くの実をつけ、鮮やかな黄色で果樹園をにぎやかにしてくれています。

この日の作業は、きれいなハッサクだけを収穫し、ビニール袋に入れ、その上に新聞紙を入れて、コンテナで寝かせておく作業です。



## \*\*干し柿づくり\*\*

農場にある愛宕柿を使って、干し柿づくりをしました。収穫する時期が遅かったこともあり、干し柿にできる柿は少なかったですが、楽しみながら作業をしました。



## \*\*ウメ・クリのせん定\*\*

この時期、落葉果樹は葉を落とし、樹と枝だけの休眠状態です。中にはすでに芽が出始めている枝もあります。せん定作業は果樹専攻生だけでなく、果樹の授業で野菜や畜産の専攻生もいっしょに作業実習をしています。



## \*\*ナシのせん定・誘引・ねん枝\*\*

昨年はせん定作業が遅れておりましたが、今年は早い時期からこれらの作業をしました。9本あるナシの樹、8本は職員が作業し、1本は2年生の専攻生と実習の時間に行いました。



## \*\*せん定後の枝を使った肥料づくり\*\*

ナシやウメのせん定作業で切り落とした枝を集めておきます。後日その不要な枝を粉砕機にかけ、チップ状に細かくします。これを保管しておいて、翌年度、肥料として使います。

自然のものを使うので、自然にやさしく環境に良い肥料となります。他の肥料と混ぜて使うことも可能です。



## \*\*ブドウの粗皮むき\*\*

粗皮とは樹の表皮のことです。その粗皮をむくことで、皮に入りこんだ害虫や害虫の卵を駆除します。3年に1度ぐらいのペースでします。

大きな果樹園では高圧洗浄機で皮を吹き飛ばしますが、敷地農場では手作業で皮をむいていきます。皮がむけると、その言葉の通り、一皮むけたきれいな表皮になります。



## \*\*3年専攻生打ち上げ会\*\*

2月に入り、授業がなくなった3年生とカレーライスを作って、打ち上げ会をしました。3年の専攻生は男子ばかりなので、果樹専攻だった女性先輩がカレー作りを手伝ってくれました。おかげでカレー作りもスムーズに進み、楽しい時間を過ごすことができました。

